

○長良川上中流域で盛んな鮎を中心とした内水面漁業と、鵜飼漁等の伝統的な漁法や鮎を使った郷土料理等を継承するため、関連商品の認定制度や「あゆパーク」を通じた普及啓発や情報発信に取り組む。清流の保全により、美濃和紙や郡上本染などの伝統工芸の継承にも貢献。

基本情報

- 所在地：岐阜県長良川上中流域（岐阜市、関市、美濃市、郡上市）
- 選定表彰等：世界農業遺産認定（H27.12認定）
- 主力商品・イベント：
  - ・人の生活、水環境、漁業資源が連環する里川のシステム「長良川システム」
  - ・清流長良川の恵みの逸品（鮎加工品等）
  - ・清流長良川あゆパーク
  - ・世界農業遺産「清流長良川の鮎」体感モデルツアー
- 活用した支援施策：
  - ・内閣府 地方創生交付金

取組の概要

- 世界農業遺産認定を地域振興に活かすため、「清流長良川の鮎」の普及啓発や保全・継承につながる農林水産物をはじめとした関連商品を「清流長良川の恵みの逸品」として認定する制度を創設。
- 「清流長良川あゆパーク」を世界農業遺産「清流長良川の鮎」の情報発信の拠点として活用し、川と魚に親しむ体験学習を通じて、鮎漁業など水産業の振興・発展を図る。
- 長良川システムへの理解を深めるため、世界農業遺産「清流長良川の鮎」体感モデルツアーを実施。



伝統的な漁法「鵜飼」

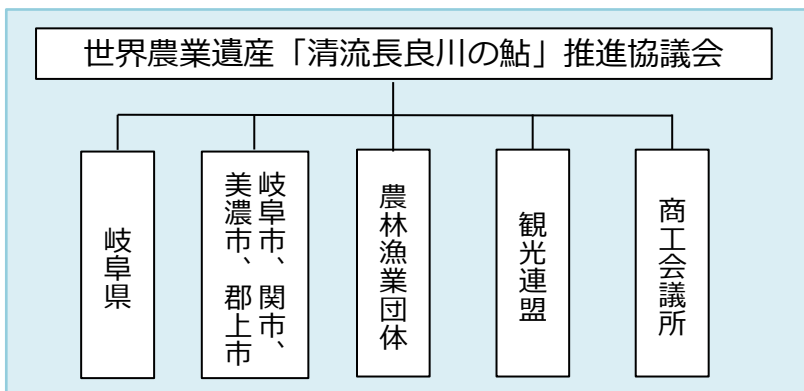


清流長良川あゆパーク



体感モデルツアー

体制図



取組の成果

- 清流長良川の恵みの逸品認定商品数：55商品（R4.7）
- 清流長良川あゆパーク来場者数：69万人（R5.2）
- モデルツアー参加者：65人（R3.11）

地域資源：農林水産物

事業分野：食品、観光・旅行、福祉

事業主体：加工事業者、宿泊事業者、農林漁業者、NPO法人ほか

- 飛騨地域の伝統食である「えごま（あぶらえ）」を農家、福祉事業所に呼びかけて栽培し、実から搾油した「えごま油」を通販等で受注生産。高山市の「飛騨高山あぶらえ研究会」と連携して生産拡大と地域の所得向上に貢献。

## 基本情報

- 所在地：岐阜県高山市
- 選定表彰等：
  - ・「ぎふ女のすぐれもの」(R4認定)
  - ・第6回「ディスカバー農山漁村の宝」東海農政局選定 (R1)
  - ・メイド・バイ飛騨高山認証 (H30)
  - ・「飛騨・美濃すぐれもの」(H29認定)
  - ・総合化事業計画 (H29.2 認定)
- 主力商品・イベント：
  - ・飛騨生搾りえごま油
  - ・飛騨えごまパウダーセット
  - ・民宿（自社経営）での料理提供
- 活用した支援施策：
  - ・H29、30ものづくり補助金

## 取組の概要

- 飛騨地域の伝統食である「えごま（あぶらえ）」の栄養分と寒冷高地でも栽培でき獣害を受けにくいという利点に着目し、平成27年に4aの畑で栽培開始。
- 平成21年設立の「飛騨高山あぶらえ研究会」と地域の福祉事業所を中心に栽培面積が拡大、現在、飛騨地域の農家等約100人から買い取り。
- 農家と障害者の収入源として取組を促進することで耕作放棄地の解消に寄与。
- 事業当初はえごまの実を販売していたが、平成29年から低温圧搾した「えごま油」を販売。その後、搾り粕を使用したパウダー等の加工商品を開発。通販を中心に自社ECサイト等で全国的に珍しい受注生産での「生搾りえごま油」を販売。



えごま畑の景観

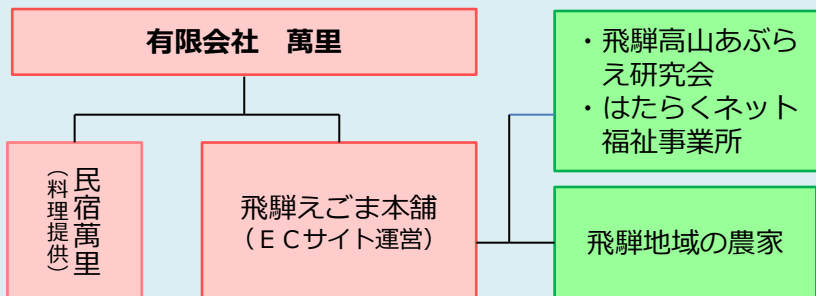


えごまの6次化商品



搾油作業風景

## 体制図



## 取組の成果

- 農産物、6次化商品の売上：27.5万円 (H27) → 3,000万円 (R4)
- 買取農家数：4人 (H27) → 102人 (R4)
- 買取数量：0.05 t (H27) → 2.8 t (R4)

ウェブサイト▶飛騨えごま本舗 <https://hidaegoma.jp/>  
 民宿萬里 <https://banri.com/>

- 多治見市を世界一の「もみじ」の町にすることを旨とし、耕作放棄地や遊休農地、山林の非利用斜面に「もみじ」を植え、「もみじ葉」を原料とした商品の製造・販売を実施。

### 基本情報

- 所在地：岐阜県多治見市
- 選定表彰：
  - ・豊かなむらづくり全国表彰事業・農林水産大臣賞受賞（R2）
  - ※同研究所が中心となり設立した多治見三郷活性化協議会が受賞
- 主力商品・イベント：もみじ加工品
- 活用した支援施策：
  - ・総合化事業計画認定（H28、R3）
  - ・農山漁村発イノベーション推進支援事業（R4～）

### 取組の概要

- 日当たりや水はけが悪く農業に向かない耕作放棄地や遊休地、荒廃した山林を借り受け、食用もみじを栽培（5ha、4千本）。
- 食用もみじを使用し、「もみじ茶」や「もみじエキス」、「もみじサイダー」、「ドライもみじ葉」等の加工品の開発・販売を実施。海外展開を見据えた新ブランド「MapleLaboratory」も創出。
- 今後、もみじ葉を使った「スイーツ」や「ヘルスケア商品」などの開発を自社ならびに地域の独自技術を持つ団体と取り組み、更なる地域雇用の創出と地域の発展を目指す。地域製造者とのスイーツ製造、近隣の大学や企業との機能性食品・コスメの共同研究開発を行う。



もみじ茶とドライもみじ葉



もみじサイダー

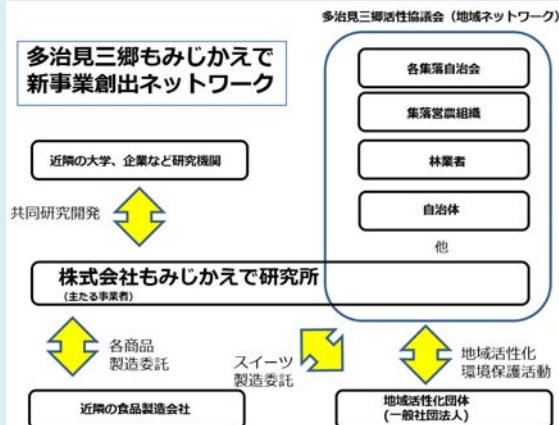


もみじスイーツ（ひまり 緋鞠）



カエデ属植物の研究

### 体制図



### 取組の成果

- 売上高：5.3百万円（H28）→ 8.5百万円（R4）
- 雇用：3名（H28）→ 6名（R4）
- 生産者所得（時給）の向上：約870円/人（H30）→ 約1,150円/人（R5）
- 耕作放棄地、遊休農地、荒廃山林の農地としての再活用：3ha（H28）→ 5ha（R4）
- もみじ葉の生産量：0.55t（H28）→ 1.5t（R4）
- 自社商品の商品数：5（H28）→ 15（R5）
- 輸出国：0（H28）→ 7（R5）

ウェブサイト▶ <https://www.momijikaedelab.jp/>



- 道の駅内に加工施設を設けて、農産物の加工・製造・販売と農業者の商品開発を支援。
- 地域の食・食文化、農林水産業及び再生エネルギー施設等をめぐるSDGsを絡めたツアー等を企画・運営。

### 基本情報

- 所在地：愛知県田原市
- 選定表彰等：
  - ・SAVOR JAPAN認定（R4）
  - ・農商工等連携事業計画認定（R3）
  - ・第二種旅行業取得（H30）
  - ・外国人観光案内所カテゴリーⅠ認定（H30）
- 主力商品・イベント：
  - ・SDGsを学ぶ花育プログラム1 Dayバスツアー 等
  - ・農産物や6次化商品等の販売（道の駅）
- 活用した支援施策：
  - ・地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業（R4観光庁）
  - ・地域文化財総合活用推進事業（R4文化庁）
  - ・地域の磨き上げを通じた域内連携促進に向けた実証事業（R3観光庁）

### 取組の概要

- 平成4年に商工会、JA、漁協の出資により(株)田原観光情報サービスセンターを設立。
- 平成5年に道の駅田原めっくんはうす（農産物直売所等）の指定管理を受託。
- 平成30年に道の駅田原めっくんはうす内に加工施設「めっくんもぐもぐ工房」を新設し、地域資源を活用したオリジナル商品を開発・販売。テストキッチンとしても機能。
- 令和3年度農商工等連携事業計画認定。地域の食・食文化、農林水産業及び再生エネルギー施設等をめぐる観光ツアーや、SDGsを絡めたツアーを企画・運営。

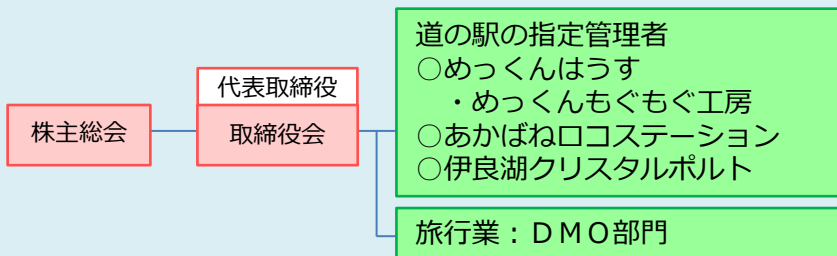


道の駅田原めっくんはうす

加工施設  
「めっくんもぐもぐ工房」加工施設で商品開発した  
ドレッシング

### 体制図

#### 株式会社田原観光情報サービスセンター



### 取組の成果

- 道の駅めっくんはうすにおける農産物、6次化商品等の売上：  
9.2億円（H30） → 9.6億円（R3）
- 農業者からの商品開発支援の委託受注数：  
H31以降、毎年60～70品を受注
- 農業者の商品開発支援による製品の売上：  
484.0万円（H31） → 1,314.1万円（R3）

ウェブサイト▶<https://tahara-michinoeki.com/>

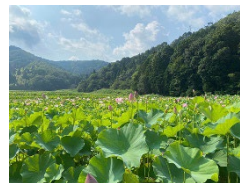
○地域の高齢者、障がい者等が、耕作放棄地の棚田で花蓮を栽培。蓮の生花利用、加工品の開発・販売により年間を通じた作業を実現。中高生等への農業体験提供の他、自治体等との連携強化による観光客誘致等を通じ、交流人口を拡大。

基本情報

- 所在地：滋賀県長浜市
- 選定表彰：
  - ・第10回「ディスカバー農山漁村の宝」特別賞（蓮と里山の景観賞）（R5）
- 主力商品・イベント：
  - ・蓮の生花・加工品
  - ・農業体験
  - ・蓮の棚田（景観）
- 活用した支援施策：
  - ・農山漁村振興交付金（農福連携対策）（R3～）

取組の概要

- 高齢者向けの居宅介護支援事業や通所介護事業、障がい者向けの就労継続支援事業の一環として、地域の遊休棚田で蓮を栽培。
- 通年での作業を可能とするため、蓮の花びらをジャムへ、蓮の葉をパウダー化して、お茶などに加工・販売するほか、農家カフェの営業も行い、高齢者や障害者の働く場、生きがいづくりの場を提供し、所得の向上を実現。
- 中高生等へ農業体験の機会を提供するほか、複数の大学と、「地域再生」、「ソーシャルビジネス」のモデルケースとしての連携を実施。
- 地域内外や都市住民の農業体験のほか、自治体や観光協会と連携したツアーや、SNSでの情報発信による観光客誘致を通じて交流人口を拡大。



蓮の風景

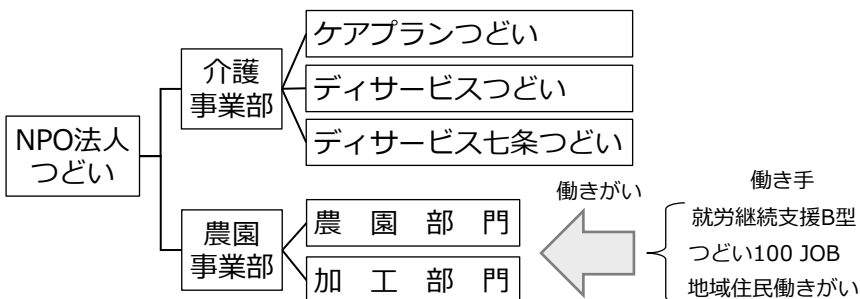


蓮の花の収穫（高校生就労体験）



左:蓮の葉茶 右:蓮ジャム

体制図



取組の成果

- 農園の売上 : 7百万円(H30) → 29百万円(R5)
- ハス園来客数 : 約200人 (H30) → 約13,000人 (R5)
- 就労体験等参加人数 : 20人(H30) → 38人(R5)
- B型作業所工賃平均 : 5,812円/月(H30) → 41,400円/月(R5)  
(参考：R4年度就労継続支援 B 型全国平均工賃：17,031円/月)
- 農業に係る障がい者数 : 7人(H30) → 20人(R5)

ウェブサイト▶<https://chitoteto.net>

○京都府北部・丹後半島の東南部に位置し、「にほんの里100選」にも選ばれた11世帯23人が暮らす小さな集落で、人口の7割を超す移住者が中心となって「上世屋の暮らし」の継承に取り組む。

## 基本情報

- 所在地：京都府宮津市
- 選定表彰：
  - ・第6回「ディスカバー農山漁村の宝」近畿農政局選定 (R1)
  - ・つなぐ棚田遺産選定
- イベント：
  - ・村人になるインターン
  - ・オンラインご飯会、上世屋キッチン
  - ・上世屋市（いち）、田んぼの生きもの調査
- 主力商品：
  - ・景観（棚田、里山）
  - ・農林産物（米、野菜）、加工品
  - ・ジビエ、クラフトビール
  - ・伝統工芸品（藤織り、和紙）
- 活用した支援施策：
  - ・農山漁村振興交付金（都市農村共生・対流及び地域活性化対策）（H28）

## 取組の概要

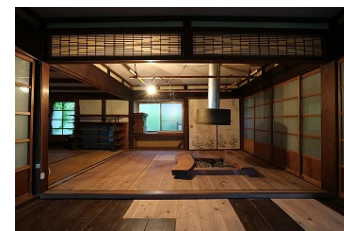
- 若手世代は全員が協議会の活動に参画。
- 空家を改修した「セヤハウス」を拠点とした移住体験「村人になるインターン」（短期～1か月以上）の受入れや「暮らし」に不可欠な収支情報をHPに掲載し、定住に向けての確かなイメージを提供。
- 暮らしを支える生業（なりわい）を創出するため、ジビエ処理施設なども建設。新商品の開発やECサイトで販路も開拓しつつ、上世屋産の魅力をイベントなどで発信。
- 「上世屋の暮らしの継承」に賛同する移住者に向け、現地や都市部でイベントを開催。



村びとたち



生業を生み出す棚田



セヤハウスの内部

## 体制図

### 上世屋定住促進協議会

事業統括

空家や空き農地の活用、調整

生業創出（農業や狩猟など）

生業創出（加工、販売など）

情報発信

## 取組の成果

- 取組開始から増加した若手移住者：3人（R4.12月現在）
- 交流人口：93人（H28）→ 310人（R4.12月現在）  
セヤハウス利用100人、オンラインご飯会40人、上世屋キッチン40人、上世屋市100人、田んぼの生きもの調査30人
- 村人になるインターン：延べ100人（R4.12月現在）  
H30:21人、R1:18人、R2:28人、R4:33人

ウェブサイト▶<https://kamiseya.com/>



地域資源：農林水産物、景観、日本茶文化

事業分野：食品、観光・旅行、教育、情報通信、イベント

事業主体：町、生産者、茶畑オーナー、国際日本茶協会

- 宇治茶生産地にて日本茶の通信販売・輸出するほか、茶畑オーナー制度によりファンを創出。インバウンド向け茶畑ツアーやオンライン教育にも取り組み、国内外に関係人口を創出。

### 基本情報

- 所在地：京都府和束町
- 選定表彰：
  - ・「食かけるプロジェクト2020」食かける賞
  - ・第50回日本農業賞特別賞（R2）
  - ・第8回「ディスカバー農山漁村の宝」特別賞（R3）
- 主力商品・イベント：
  - ・お茶
  - ・茶畑ツーリズム
- 活用した支援施策：
  - ・事業再構築補助金（R3：経済産業省）
  - ・JAPANブランド育成支援事業（R4：経済産業省）

### 取組の概要

- 平成20年から日本茶の輸出に取り組み、世界116か国に茶葉を直送可能な体制を確立するとともに、年4回茶畑直送の茶葉が届く「茶畑オーナー制度」の取組を実施。
- 茶産地を日本茶文化の体験型観光地として発展。平成24年からインバウンド需要に応え、外国人スタッフを雇用し多言語化も実現。
- 世界中どこからでも茶農家から直接日本茶について学べるオンラインプログラム「Online Tea Education」を令和3年から開始。Withコロナ時代に発達したオンライン教育部門にも参入し、新たな日本茶のビジネスを展開。



オンライン茶摘みイベント



インバウンド茶畑ツアー



Online Tea Educationの様子

### 体制図



### 取組の成果

- 輸出額の増加：900万円（H27）→ 2,500万円（R2）  
→ 4,500万円（R3）
- ティーツアー参加者の増加：761人（H27）→ 1,590人（R1）  
→ 150人（R3）→ 2,000人超（R4見込み）
- 茶畑オーナー：720名（R3）

ウェブサイト▶<https://www.obubu.com/>

- 聴覚障害者やひきこもり状態にあった者等が、宇治茶の手摘みやエビイモの手掘りなど高品質な京都の伝統野菜の生産・加工に通年で従事し、農福連携の普及啓発に取り組む。

### 基本情報

- 所在地：京都府京田辺市
- 選定表彰：
  - ・あしたのまち・くらしづくり活動賞（R4）
  - ・ノウフク・アワード グランプリ（R3）
  - ・グッドライフアワード環境大臣賞（R2）
  - ・第6回「ディスカバー農山漁村の宝」（R1）
- 主力商品・イベント：
  - ・宇治抹茶、京都エビイモ、京都田辺ナス、万願寺トウガラシ、京花菜、鷹の爪
  - ・宇治抹茶の加工品、京野菜の加工品
- 活用した支援施策：
  - ・京都式農福連携補助金事業（H29～）
  - ・京都府女性活躍応援事業（R3, 4）
  - ・京もの食品需要拡大応援事業補助金（R4）

### 取組の概要

- 宇治茶の手摘みやエビイモの手掘りなど、高品質な京都の伝統野菜等を生産するとともに、これらを活用し付加価値の高い加工品の開発、販売も行う。
- 併設のコミュニティカフェでは、メニュー作りから接客、調理まで障害者が中心となり行う。
- 令和元年にノウフクJAS（第1号）認証の取得。その後、京都中央仲卸市場や東京大田市場の仲卸業者と取引が始まり、ミシュラン2つ星の京懐石店や高級ホテルの名店に食材を卸すなど販路が拡大。JGAP認証も取得し、持続可能な農業を推進。
- 取引先の企業や料理人と連携し、児童養護施設の入所児童を対象に「さんさん食育プロジェクト」を展開。



田辺ナスの収穫作業

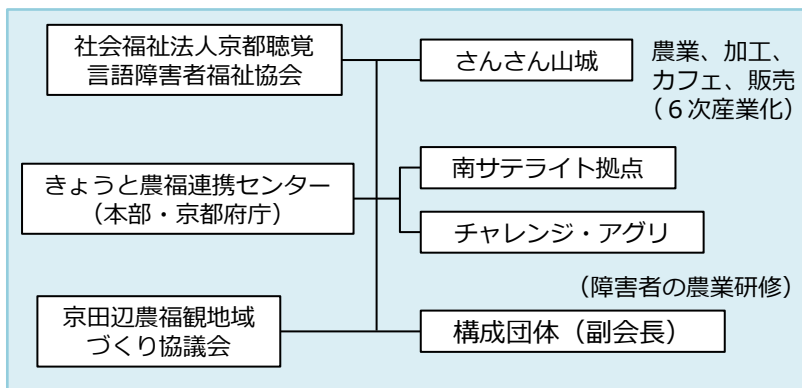


宇治茶の手摘み作業



さんさん山城コミュニティカフェ

### 体制図



### 取組の成果

- 野菜、加工品、コミュニティカフェ等の売上：570万円（H26）→1,710万円（R3）
- さんさん山城を利用する障害者の年間のべ人数：3,486人（H26）→5,742人（R3）

### ウェブサイト

▶ <https://www.kyoto-chogen.or.jp/communityplaza/sunsunyamashiro/>



地域資源：農林水産物、舟屋、文化

事業分野：食品、観光・旅行

事業主体：協議会（町、農林漁業者、酒蔵、金融機関等）

○地域内に230軒立ち並ぶ舟屋を活用した宿泊施設と食事施設を整備。宿泊と食事を別施設で提供する「泊食分離」の実現によって宿泊施設の開業を促進。

### 基本情報

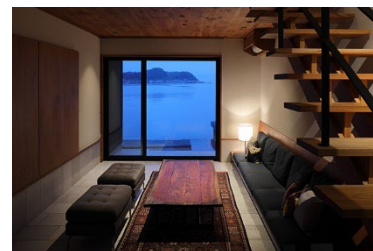
- 所在地：京都府伊根町
- 選定表彰：
  - ・第9回「ディスカバー農山漁村の宝」(R4) ビジネス・イノベーション部門優秀賞
  - ・第13回観光庁長官表彰 (R3)
- 主力商品・イベント：
  - ・舟屋を活用した農泊
- 活用した支援施策：
  - ・農山漁村振興交付金（農泊推進対策）

### 取組の概要

- 平成30年に協議会を設立し、宿泊施設や飲食店などの観光関連施設だけでなく、生産者や金融機関など多分野の事業者と連携し、農泊を推進。
- 生活の一部を切り取った体験として、個人宅での小さな漁業「もんどり」体験や漁具づくり体験、刺身づくり体験などを提供。海と寄り添った暮らしの中に息づく持続可能な日常を通じて、海の豊かさや魚介類の品質の良さを味わうことができる滞在型観光を推進。



伊根湾の「舟屋」

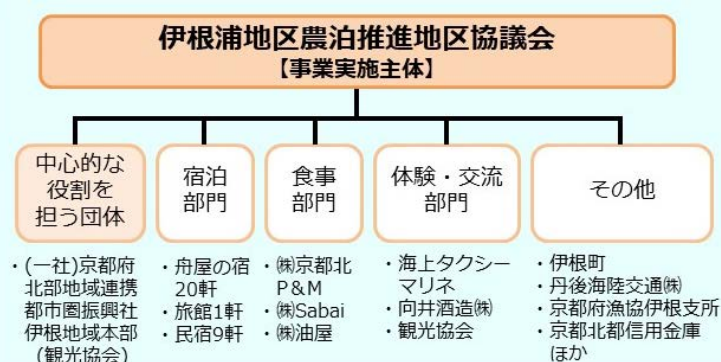


舟屋を改修した宿泊施設



小さなかご網漁「もんどり」体験

### 体制図



### 取組の成果

- 宿泊施設の売上：約8千万円（H29）→ 約1.9億円（R4）
- 宿泊施設数：15軒（H29）→ 30軒（R4）
- のべ宿泊数：約6千人（H29）→ 約1万3千人（R4）

ウェブサイト▶<https://www.ine-kankou.jp/first>